

澤井ゼミ Cグループ

テ
ー
マ

プロ野球球団 理想のホームゲーム

アウトライン

近年観客動員数を着実に伸ばしている横浜DeNAベイスターズ・広島東洋カープに、
2球団の試みを焦点を当て、考察することで理想のホームゲームについて考える。

研究の意義

プロ野球のテレビでの地上波の放送が減っている中で、観客数の増加が起こっている要因を分析することで、成功要因を見つけ、ファンを魅了するエンターテインメントとしてのスポーツを学ぶ。

萩原ゼミナール

テーマ:若年層に向けての投資信託の普及について

研究の意義:家計に投資信託を普及させ、長期的な資産運用を実現させる

発表のアウトライン

- 投資の必要性
 - 投資信託とは
 - 投資信託の問題点
 - 提案するアプリの詳細
-

カンボジア×学校建設

山田知明ゼミ チームあみだくじ

「カンボジアに学校を建てよう」
皆さんはこのフレーズを耳にしたことはありますか？
近年テレビ番組や映画でカンボジアに学校を建てる
ボランティアがよく見られます。
しかし現在でもなおカンボジアが必要としている
教育支援は学校建設なのでしょうか
カンボジアの教育現状を分析し、
その原因から今カンボジアに本当に必要な支援は
何か。私たちにできることは何か、を考えました。
ただ「ボランティアをする」ではなく、
「役立つボランティアをする」ため新たなカンボジアへの
ボランティアの形を提案します。

中高生の学校制服について

〈学校制服の歴史と今後の対応策〉

概要 制服の歴史

学校制服の存在意義

学校制服の今後の課題

今後の対応策

要旨

学校制服がこれまでどのような社会的要因に促され変化したのか検証し、そのうえで今後、学校制服が現代社会にどう影響され、変化していくのかを考察していく。



小学校英語教育

小学校英語教育班

Presentation Outline

1. 緒言
2. 現状と課題
3. 仮説
4. 調査内容と調査結果
5. 提言
6. 総括 今後の課題

Study Purpose

新たな小学校英語教育に際し、課題となる学級担任の負担増と学級担任の専門的知識の欠如の2点を解決するための策を提言し、文部科学省の改革をより良いものにする

スポーツ団体の不祥事防止策 出見世信之ゼミナール

近年、選手個人だけでなくスポーツ団体に関わる不祥事がメディアで多く取り上げられている。では、どのような対策をとればスポーツ団体の不祥事を未然に防ぐことができるのか。この研究では、スポーツ団体である全日本柔道連盟の過去の不祥事の事例から課題を抽出し、適切な防止策を提案する。

Introduction

スポーツの関連経費は多い



多額のお金がかかる組織にはガバナンスが不可欠



お金がかかる以上きちんとした統治が必要

Task

閉鎖性が生じることが問題

閉鎖性が生じると...

社会の認識とのギャップが生まれる

内部の関係性により意見の主張ができない

不祥事だと認識しづらい

Proposal

権力分散と外部との認識共有のため...

外部人材の登用が必要

専門の経営者を登用することで社会の認識を取り入れ内部の関係性と切り離れた統治が行われる



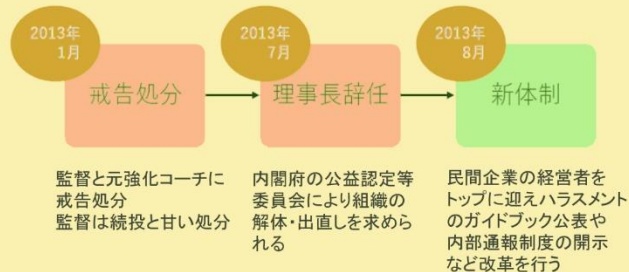
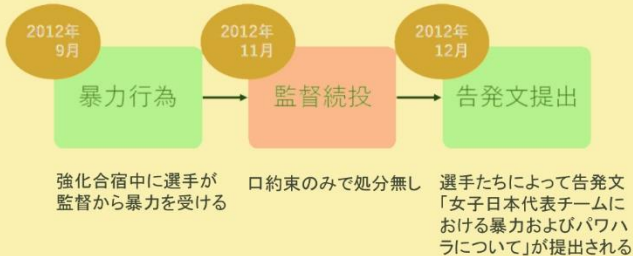
そのために...

スポーツ・ガバナンスコードが有効

外部との認識共有と権力を分散し不祥事を防止するためにJOC等がスポーツガバナンスコードを策定すべきことを提言

Analysis

日本柔道連盟の不祥事概要



身内意識

内部の密な関係性ゆえに不祥事の際に生じるもみ消し・擁護の可能性

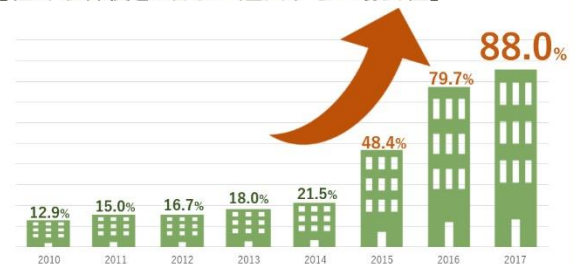
上下関係

体育会系特有の強い上下関係による上からの圧力・恐怖感

権力集中

独裁的な組織になる恐れ

【社外取締役を2名以上選出する上場会社】



2015年に東証コーポレート・ガバナンスコードが策定されると社外取締役を導入する上場企業の割合が増大しているスポーツ界でもコードを策定することで外部人材の登用が進むだろう

キャッシュレス決済推進に向けて

千田ゼミ キャッシュレス班

● アウトライン

近年、世界的にキャッシュレス化の推進が盛んにおこなわれており、日本でも対外需要の高まりを受け、政府主導によるキャッシュレス化推進への画策がなされている。

しかし、未だ日本のキャッシュレス化への対応や国民の意識は世界水準の追いついていない。

そこで今回、我々は政府主導でのキャッシュレス化推進案として、実現可能なプランを検討・提案する。

● 研究の意義

今回の我々の研究には、これからの日本がキャッシュレス化への対応を模索していく中で、学生目線での政策案を思考することに大きな意義がある。世界基準への到達が性急な課題として挙げられる現代日本において、この学生目線での提案が課題解決への一助になることを狙いとしている。

